

「高倉の昔ばなし」より

八番 嫁に行くなら高倉お止し

第一幕

ナ

昭和三十年上水道設置以前の高倉は、冬から春の乾季は、井戸水が涸れる家が多く、それはそれは困難を極めた。

開幕

風呂セットの場

子

「おとつちゃん、おとつちゃん、湯がぬるいよう、湯がぬるくって、寒くって寒くってしようがねえよう」

父

「アアほれ見ろ云った通りだんベエやア、まあだぬるいっちゅうにかまあずひゃあんからぬるいだあ」

子

「おとつちゃん、おとつちゃん、寒くって寒くってカゼエひいちまあよう、どんどん燃やしてくんなよう」

父

「どんどん燃やせつったつて槓^{マキ}あ生でなかなか燃えやしねえよう」

子

「ところでおとつちゃん、今日は風呂桶が前へ曲ってんけど、あぜだあ」

父

「ううん、そりやあなあ、実あこう云う訳だどうだよく訳ったんべえ」

子

「ああ、そう云う訳か、ふーんよく訳ったようと云いてえが、おとつあんなあまあだ何も云^{あに}つちやあいねえよう」

父

「うーん、ハッハッハそういやあ、まあだ何も云つちやあいなかったなあ、じゃあいいか、良く聞けよ、桶^{いっ}え曲げてしったが坂^{どこ}んなってんなあ、実あここんとこ何時にも雨ア降んねえ、何処^ちん家でも井戸の水がとぼしくなつて来た、ちつとでも水うだいに使あように種々^{いろいろ}考えてな、そこでちつとの水で釜エ水がかぶるように風呂桶エまげてあんだあ、熱いから釜エおつつくじやあねえどう。ああ、やつと良く燃えて来たあ」

子

「アチツチツチチ、アチイよう」

ニンバで開幕 野良道中の場

「だからおつつくなくなつたんベェに」

「坂だから足が前へすべんだよう、アチイ、アチイ」

「ずい分早えなあー、こんなに早くつから与七つあんなあ畠かよう」

「ああ清吉つあんもずいぶん早えなあ」

「けんどの天気じゃあまいったなあ、毎年めえとしのこつたがこう日照り続きじゃあ野菜やせえもんもあにもみんな干上つちまあな、こねえだなんざおらあたまげたア、せどの畠ええだの麦の間になあモグラのちきしようがなあとつも二十も干乾ひほしんなつてやがつたあ」

「へーえ、そう云やあおれもこねえださつま穴あなからなさつまあ出したらな、この天気でさつまあすつかり喰い頃ふに蒸ふけててなあ、あんまりいらでくさつちまあから近所きんじえ配つて喰つてもらつただよ。そうしたらその晩なあ近所中であつちでもこつちでもな火花が上つてなあ大さあぎだつた・・アハハ・・この分じゃあ又井戸が干て、西つ沢や清水へ水う吸みえじき行くようだ、泥まで乾えてパサパサツコケツコツコーだヨーワツハツハ」

「アレ、向うから来んなあ源さんと竜つあんじゃないやあねえか。よーお、朝つからそんなにしゃれこんで二人で何処どけえだい」

「うー実あなあこの日照りで雨が降んねえでしょうがねえ、とうとう雨乞いすべえつちゆうでな名主様に頼まれてなあ御岳み様へ命水めえつちゆうをいただきに二人で行つて来んだあよ」

「ふーん、そりやあそりやあご苦労なこんでまあ何分きゆ気うつけて行つて来てくんなあよ」

「そんじゃあ行つて来んかな」 ニンバ幕

父 「源さんと竜つあんなあ御岳さめえ雨乞い水ういただき行ったが無事い着いたんべえかなあ」

清 「ああもうボツボツ帰けえって来そうなものだなあ、まああの二人のこったから心配べえなかんべえ一ぷくやって待つてんべえや」

ニンバ 花道に二人さしかかる ニンバ止

源 「あーあーいら歩ったなあ御岳さまあ遠かったなあかったりーなあ足あ棒んなつちやったなあ、でもあんとか高倉え着いておめえ良かったいなあ」

竜 「おらあごうたれちまったあよう。けんど源さん妙だい。こっちからあ、あの御岳あめえんに御岳みたけから高倉あいつせつ見えなかったなあ・・・よう今帰けえったい」

与 「ああ、どうもどうもご苦労だったなあ、まあ降らねえでいい天気であんべえ良かったなあ、アイヤ降らねから弱ってんだなあ」

源 「じゃあちよつくら上らしてくらっしえよ。じゃあ名主様これが雨乞いのお札フダと、せいから水だあ。けんど青梅辺りでおらああんまりのどが乾いてついラツパあしちまっただよ。」

名 「あにい、飲んだあしようがねえなあ、みんなかあ「ポチャポチャ」うーんけつこう有あこんだけ有あでえじよぶだあ・・・サアみんなじゃあ雨乞い始めんべえ、坊様ア一つお願え申します。」

坊 「じゃあ皆さん始めましょうぞ・・・名主さん竜りゅうの頭かしれへ命水をかけて下されや、残りは竜全体にかけて下されえ。じゃ並んでみんなで祈りましょうぞ・・・チーニーニユゴニヨゴニヨゴ雨を降らせ給タマえノンノオカンジーチー
ン」

みんな拜む ナムアマミダブナン妙法蓮華経

子 「ア、おとつちゃん雨が降って来たよ」

父 「ああふんとうだ目出てえ目出てえカンカンノードカンカンノード。そうだそうだカンカンノード」

このように昔の高倉は乾季井戸水に困り「嫁に行くなら高倉お止しよしめし洗いの水まない」と赤ちゃんのおむつ洗いの水にも困ると歌にうたわれたと云う。しかし実際は嫁が来ないで絶えた家はなかった。 おわり

配役	氏名	配役	氏名
ナレーター	洋一郎	名主	吉司
父・おとつちゃん	透	坊・坊様	嘉幸
子・子供	好男	笛	甲平
清・清吉	佐藤	大判	洋一郎
与・与七	正行	付	洋一郎
源・源次郎	昇	拍子木	窪・甲平
竜・竜三郎	章	幕引	窪